



デファスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド
[空手道編]

karatedo



ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長
太田 陽介



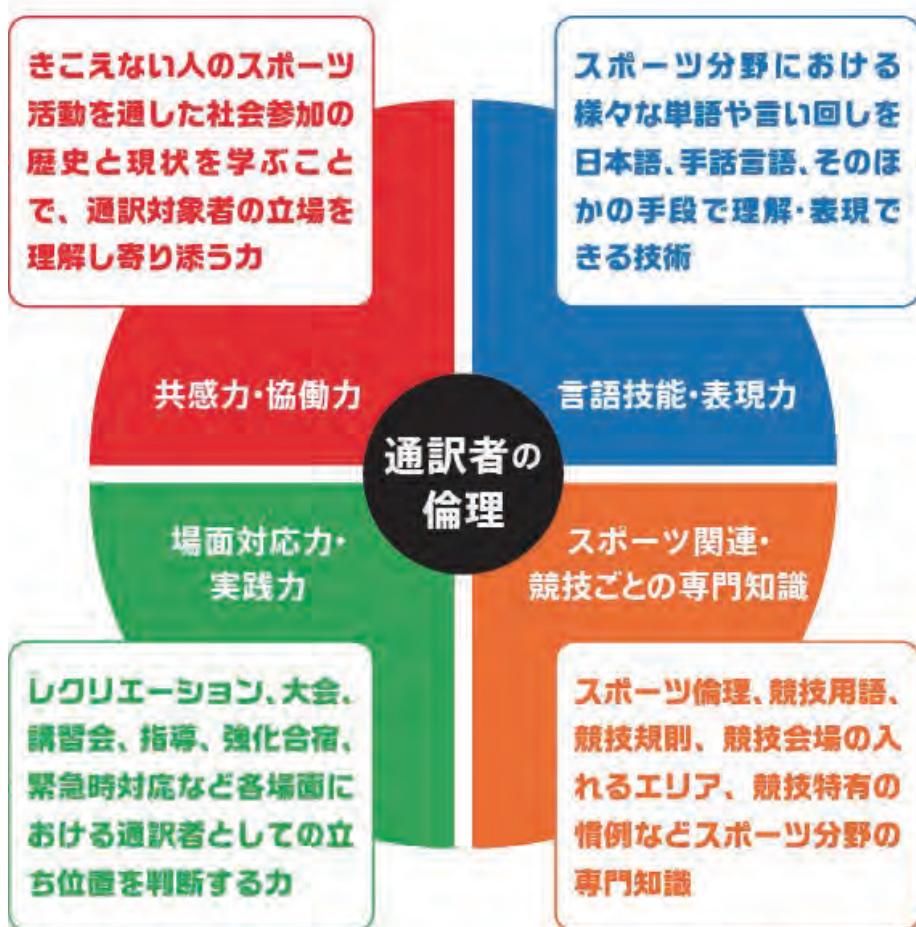
スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通した社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるために、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。一方、きこえないアスリート(デファスリート)がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デファスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっていきます。

そこで、本委員会では令和2年度より、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的として、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」を受託しており、3年目となる令和4年度は、ドクター、トレーナー等、デファスリートを取り巻く話に焦点を絞った医科学編と、専門種目としてバスケ競技、水泳競技、空手道競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」「言語技能・表現力」「場面対応力、実践力」「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特に空手道競技に必要な知識を紹介します。

空手道の基礎知識①

空手道とは

- ・沖縄から生まれた武術
- ・武器を持たず素手で戦い、突き・受け・蹴りの3種類の技を使う武道である
- ・礼節を重んじており、「礼にはじまり、礼に終わる」の心構えを大事にしている

空手道の種類

伝統派空手

- ・寸止めルール
- ・スピードやキレ、技の完成度を重視
- ・直接に当たらない寸止めルールを採用しています。
- ・スピードやキレ、技の完成度を重視しており、姿勢の美しさも含めて、判定を行います。



伝統派空手には主に四大流派があります。

四大流派

※P.17「2. 流派団体名」で手話表現が確認できます

しょうとうかんりゅう
松濤館流

しどりゅう
糸東流

ごうじゅうりゅう
剛柔流

わどうりゅう
和道流

フルコンタクト空手

- ・直接打撃ルール
- ・ノックアウトするまで戦うため、パワーと打たれ強さが重要に。
- ・直接打撃制ルールといった直に当てるルール。

ノックアウト(KO)するまで突きや蹴りでダメージを与え続けながら戦うため、パワー、打たれ強さが重要となります。

有名な団体では、極真会館、正道会館、新空手、芦原会館などがあります。



デフリンピックで行われる競技は伝統派空手です。(寸止めルール)

空手道競技のルールには2つあります。

- ・国内大会(日本)・・・JKF(全日本空手道連盟)ルール
- ・国際大会(デフリンピック)など・・・WKF(世界空手道連盟)ルール

※国内でもWKFルールを適用している場合があるので事前に把握しておくとよいでしょう。

空手道の基礎知識②

形(かた) kata

全日本空手道連盟(全空連)または世界空手連盟(WKF)が指定する形リストから選んで演武する。スピードやキレ、技の完成度を重視しており、姿勢の美しさも含めて判定が行われる。



組手(くみて) kumite

8m四方のコートの中で、2人の選手が1対1で戦う。突き・受け・蹴りの技を実際に使い、ポイントを取る。ポイントは1ポイント、2ポイント、3ポイントの3つがある。



突き(つき)

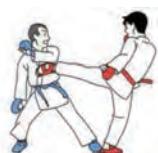
有効!



1ポイント

蹴り(けり) 1

技あり!



2ポイント

中段蹴り

蹴り(けり) 2

倒れた相手への突き・蹴り

一本!



3ポイント

一本!



空手道の基礎知識③

コート (Tatami)

コートは一片 12m

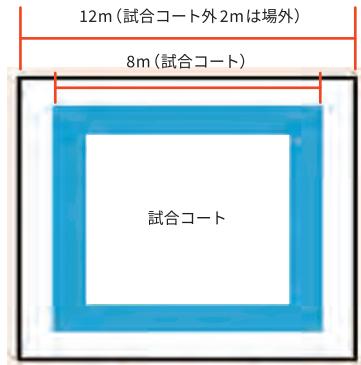
試合コートは 8m 内 (青枠内)

青枠を超えると、「場外」扱いになり、反則となる。

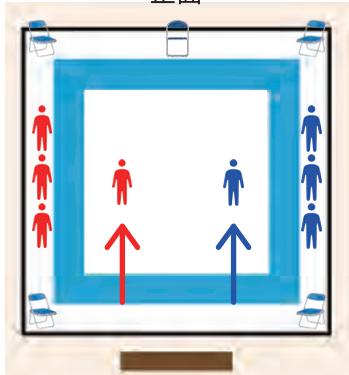
試合コートに入れるのはその時の試合の選手と主審のみ。

※手話言語通訳者は入れない

空手道は「形」か「組手」によって入場方法や赤青の配置が
変わる。



正面



形 (かいた) kata

正面に向かって **右側** が青選手

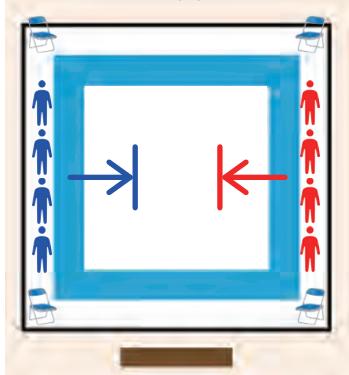
正面に向かって **左側** が赤選手

選手の入場方法：矢印のとおり
(2人同時演武の場合)

四隅と正面中央の椅子：審判席



正面



組手 (くみて) kumite

正面に向かって **右側** が赤選手

正面に向かって **左側** が青選手

選手の入場方法：矢印のとおり

四隅の椅子：審判席



防具、空手道着一式の名前

道衣の中に装着している防具

道衣の外に装着している防具

※P.17「3.道着・防具」で
手話表現が確認できます

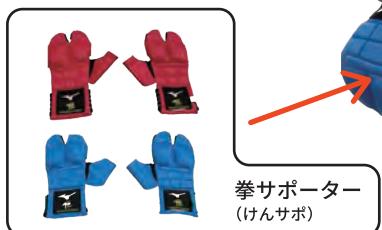


メンホー



ボディプロテクター

※試合時は道衣の中に装着する。
練習では外に着用する場合がある。



拳サポーター
(けんサボ)



シンガード
(すねガード)



インステップガード

- 80 -

道衣
(道着)



その他(防具)

- ・ファールカップ(金的サポーター)
- ・マウスピース

写真提供：全日本ろう者空手道連盟

ろう者と空手道

きこえない空手道選手は

全国各地に多くいます。

多くの方は地元の道場もしくは学校内の空手道部で稽古を積み重ね、国内のJDKF.空手道競技大会や各地域や学生の大会などに出場し、きこえる選手と切磋琢磨しあっています。



立ちはだかる障壁

「きこえない」ことを理由に大会出場を断られる事例が数年前にありました。

また、「形名の申告は手話ではなく声を出して申告してください」と試合当日に言われた選手もいます。このように「前例がない」だけきこえない選手の空手道に対する楽しさや夢が奪われる事例が続いていました。

国内初「音声が見える空手道競技大会」の誕生

過去の事例を踏まえて、視覚的情報を完備した大会を運営しよう！

と立ち上がった人たちがいます。

そこではきこえない・きこえにくい・きこえるを問わず全員が対等な状態で切磋琢磨しあえるよう、審判・笛の合図を知らせるライトの設置や手話通訳の配置など「音声を見える形」にしました。こうして、国内初の音声が見える空手道競技大会「JDKF.空手道競技大会」が誕生しました。

この大会では形名を「手話」で申告して試合に臨めます。



主な大会(国内外)

国内大会



「JDKF. 空手道競技大会」

国内初の音声が見える空手道競技大会

情報を「見える化」し、だれもが安心して参加でき、きこえない人もきこえる人も互いに切磋琢磨しあれる大会です。(全日本ろう者空手道連盟主催)

大会詳細はこちら→

- ・その他

地域大会 / 学生大会(中体連、高体連、大学等) / 全空連大会 / 全日本パラ空手道大会など



国際大会



「夏季デフリンピック」

聞こえないスポーツアスリートたちが目指す最高峰のスポーツ大会

- ・豆知識

空手道競技は2008年フランスでのプレ大会に初めて行われ、2009年台北デフリンピックから正式種目として追加されました。以降、大会を重ねるごとに参加選手が増加し、個人形 / 個人組手の他に団体形 / 団体組手の区分も追加されています。

- ・その他

アジア大会 / 世界大会など

空手道と情報保障①

空手道の大会での「視覚的情報保障」

写真提供：全日本ろう者空手道連盟
左列：国内大会（JDKF 空手道競技大会）
右列：国際大会（夏季デフリンピック）

審判員の合図をライトやジェスチャーで知らせる

組手競技中に「技が入った」「コートからはみ出た」など、副審が旗を挙げたら、主審は両選手に合図を出します。合図は「勝負はじめ」「ヤメ！」と残り15秒を知らせる「あとしばらく／15秒前」の3種類があります。

- ①「勝負はじめ」・・・組手競技の試合開始を主審が宣言



- ②「ヤメ！」・・・技が決まった時や反則行為があった時等、
2名以上の副審が旗を挙げたら主審が試合を止める



- ③「残り15秒」・・・試合時間残り15秒のときの合図

「あとしばらく」「15秒前」ともいう



残り15秒の時点で、青ライトが点滅

一旦ゲームを止め、「10」のジェスチャーを出す

空手道と情報保障②

「視覚的情報保障」の設備や配慮がない大会～きこえない選手が大会に出る時に～

手話言語通訳者の任務

地域の大会やきこえる団体が主催する大会では、きこえない選手に対する情報保障の設備がない、大会関係者の配慮が足りない場合があります。そうした大会にきこえない選手が出席した場合、手話言語通訳者は選手の呼び出しや審判員の合図など**選手にとって必要なあらゆる音声情報を視覚的に伝えなければなりません。**

「あとしばらく / 15秒前」の場合

写真提供：朋心会

ブザー 「ピッピッピッ」「ピッピッ」

音声 「あとしばらく」「15秒前」

両手をあげて振る



「あとしばらく」のサインを動画でみる→

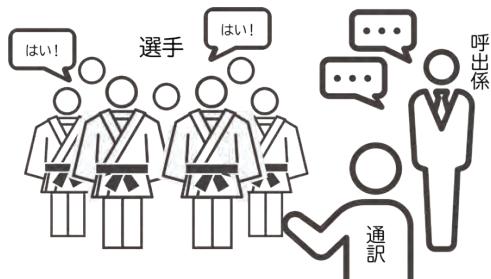


招集時の選手の呼び出しには細心の注意を払う

形 / 組手競技が始まる前に選手が招集され、選手の呼出(名前の点呼)が行われます。選手呼出に応答しないと、その場で棄権扱いとなるため、通訳者は聞き逃しすることがないよう、呼出係の近くに寄るか、事前にきこえない選手がいる旨を係員に共有するなど、「場の調整力」が重要となります。

「大会中の事例」

レベルの高い大会に出場したきこえない選手が招集時間に待機していたにも関わらず、本人の名前の呼出がされず、その場で棄権扱いとなりました。その場にいた通訳者は「声がきこえなかったため、呼出の通訳ができなかった」と言います。大会のために稽古を頑張ってきた選手や保護者はやり場のない感情を抱えて、その場を離れました。



通訳者は「介護者」ではありません。きこえない選手がきこえる選手と対等に情報を得られるように、きこえない選手の名前だけ通訳するのではなく、全員の名前を通訳する等、音声情報をきちんと通訳することが求められます。

空手道の手話言語通訳のポイント

大会編①

地域の大会やきこえる人達の団体が主催する大会など

写真提供：朋心会

万全の準備と心構えを。

通常の大会では、幼児からシニアまでの選手が参加し、4～10面のコートがあり、それぞれ学年別かグループに分かれ、同時に試合が進行します。そのため、きこえない選手が複数出場する場合、通訳者はそれぞれのコートに分散します。



- ・事前にタイムテーブルを確認し、きこえない選手がどのコートにいるのか把握し、担当するコートを決めます。

- ・スケジュールは試合の進行状況によって早く進んだり、遅れたりすることがあります。現場の状況を必ず目視で確認してすぐに行動に移せるように心構えが必要です。

場面に適した通訳方式

1. 試合進行中「同時通訳」

- ・選手呼出
- ・審判員の合図 など

呼出にすぐに応答することで試合が滞りなく進行することが求められます。また審判員の合図やブザーなどの音声情報が1つでも欠けると、選手自身の気持ちや戦略が崩れる可能性があります。通訳によって勝敗を左右する可能性があることを忘れてはいけません。



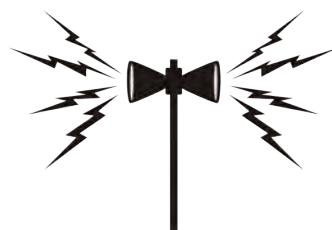
2. 会場アナウンス「同時通訳または逐次通訳」

- ・スケジュールの変更による選手の招集案内
- ・表彰による呼出
- ・緊急呼出や忘れ物の案内など

特にスケジュールの変更やコートの変更など、アナウンスに気づかず、招集に遅れて棄権扱いされることがないように、細心の注意を払いましょう。

3. 式典など「同時通訳または逐次通訳」

- ・事前に資料確認できる場合は同時通訳、確認ができない場合は逐次通訳で正確に伝達する
- ・登壇者や来賓の名前は事前に確認する
- ・立ち位置を事前に確認する
- ・きこえない選手だけではなく、観客席にもきこえない人がいることも考慮する



空手道の手話言語通訳のポイント

大会編②

4. 接待時「ウィスパリング通訳」

- ・来賓の接待
- ・役員や関係者との話し合い など

1人対1人、もしくは複数人の会話の中で利用者が1人だけの場面で、隣でささやくように通訳する方式です。相手との関係性やTPOを考慮した言葉使い、語彙力など、テンポを遅らせることなく、双方の会話を進める技術が求められます。



きこえない人達の団体が主催する大会

写真提供：全日本ろう者空手道連盟

きこえる選手がマイノリティとなる

きこえない人達の団体が主催する大会は、スタッフのほとんどがきこえない人、もしくは手話言語ができるきこえる人が一緒に運営を担っているため、コミュニケーションは基本的に手話言語になります。当然、開会式や閉会式などの式典では、きこえない司会者が手話言語で進行することになります。ここでの手話言語



通訳者は、手話を知らないきこえる選手や参加者のために、音声日本語による通訳をする場面が多くあります。そのため、きこえない人の手話を読み取る能力が求められます。

誰ひとり取り残さない空間（デフスペース）を意識しよう

きこえない選手がたった1人でも情報利用の機会から排除される状況がないよう、手話言語通訳者は「誰ひとり取り残さない空間（デフスペース）」を常に意識しましょう。

「大会中の事例」

きこえない選手対きこえる選手の組手試合のことです。きこえる選手が競技中に倒れ、審判員がドクターコールをしましたが、手話言語通訳者は「きこえない選手に直接関係しない」と判断し、あえて通訳しませんでした。しかし、きこえない選手は何が起きたのか情報がなく、その場でただ待つかりませんでした。ここでは、手話言語通訳者は審判員が何を言ったのか、その時起きている状況をきこえない選手に情報を伝達する必要があります。

「偶発的学習について」

日常生活から様々な情報があり、知らぬうちに単語の意味を理解し、結果的に生産性が高くなることを偶発的学習といいます。情報保障がないときこえない選手は情報格差・孤立化という2つの問題を抱えることになります。偶発的学習で得た知識やスキルをアウトプットすることで、自分自身の能力を高めるだけでなく、周囲との関係構築にもつながります。

たとえ雑談だとしても、手話言語通訳者は「今のはきこえない選手には関係ない」と判断せず、**選手にとって必要な**あらゆる音声情報をきこえない選手に通訳することを忘れないでほしいです。

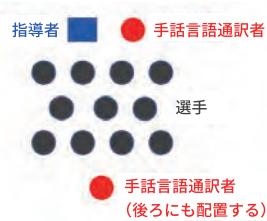
空手道の手話言語通訳のポイント 稽古 / 強化合宿編

強化稽古・合同稽古

きこえる指導者の下で、きこえない選手がきこえる選手との稽古に参加する場合、手話言語通訳者の立ち位置が重要となります。またきこえない選手の年齢層や言語環境によって、手話言語に対する理解力が異なるため、本人が理解しているかどうか、選手の反応をしっかりと確認しながら通訳をする必要があります。

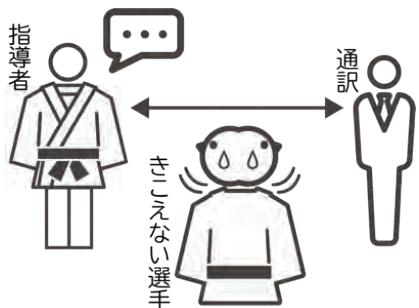
1. 通訳者の立ち位置①

指導者は選手と対面に立って指導しますが、形は挙動ごとに回転するため、形の一部では、後ろに方向転換した時、声だけで指導を聞く状態となります。この時、手話言語通訳者はきこえない選手が見える位置まで移動するには間に合わないため、形の稽古中は、2人体制で、前と後ろの位置に立って、同時に通訳するのが理想的です。



2. 通訳者の立ち位置②

指導者が正しいフォームの手本を見せながら、助言することがよくあります。この時、手話言語通訳者が指導者から離れた位置に立つと、きこえない選手は、指導者のフォームと助言の通訳を見ることができず、適切に情報を得ることができません。手話言語通訳者は、きこえない選手が常に指導者のフォームと一緒に通訳内容が確認できるような位置に立つよう意識して指導者から離れないようにしましょう。



3. 手話言語通訳者の存在を全員に共有する

なんのための手話言語通訳者なのか、その場にいる全員に共有することも大事です。

例えば、保護者の見学がない稽古の手話言語通訳者は、周囲から煙たがられる雰囲気となり、やりづらくなることがあります。またきこえる選手に遠慮して、目立たないところで通訳する場面も見かけますが、これではきこえない選手のためになります。事前にきこえない選手がいること、きこえない選手も対等に稽古に参加するために手話言語通訳者が必要不可欠であることを共有することで、その場の雰囲気に馴染むことができ、きこえない選手も稽古に集中することができるようになります。

4. 号令のタイミングも重要

きこえない選手ときこえる選手の強化稽古や合同稽古では、きこえる指導者の号令「1, 2, 3, 4...」のタイミングに合わせて、次の動きに移る練習があります。その号令の通訳のタイミングが遅れると、きこえる選手よりきこえない選手の動作が遅れてしまいます。音声中心で稽古が進み、きこえる選手に囲まれて対等に力が発揮できない状況では、気後れしアスリートとして自信をなくす恐れもあります。スポーツ現場ではタイミングも重要です。

空手道の手話言語通訳のポイント 稽古 / 強化合宿編

強化合宿

コーチとスタッフ、選手の関係性を重視する

きこえない選手ときこえるコーチ・選手のそれぞれの人間関係を重視し、きこえない選手・コーチ・スタッフに寄り添った通訳を心がけましょう。

空手道の手話言語通訳のポイント 講習会編

いろいろな講習会

スキルアップのための講習会

- ・指導者養成講習会(日本スポーツ協会公認コーチ養成、地区指導者養成講習会等)
- ・審判員講習会
- ・技術講習会
- ・指導者更新研修会
- ・選手強化のための講習会
- ・アンチ・ドーピング講座
- ・スポーツ栄養学講座
- ・WKFルール勉強会

きこえる人たちと対等に、きこえない選手の強化やきこえない指導者のスキルアップがされるために、手話言語通訳者はその技術と知識の向上にも務めなくてはなりません。

専門用語は「指文字」と「手話言語」を活用する

事前に資料をチェックし、専門用語の手話表現を習得できるように準備が不可欠です。

きこえない選手の中には初めて聞く専門用語もあることを考慮して、最初は「指文字」と「手話言語」を活用し、2回目以降は「手話言語」を活用するとよいでしょう。

～空手道にかかわる手話言語通訳者～

「派遣通訳」

国内大会、合同稽古、昇級 / 昇段審査会、指導者講習会、ワークショップ、指導員会議等

- ・継続的なかかわりではなく、その時その場の通訳の範囲で対応

「強化チーム帯同通訳」

強化合宿、国内大会運営、国際大会、強化スタッフミーティング、研修会など

- ・通訳のみならずサポートスタッフとして動く
- ・双方の人間関係や背景を十分に理解したうえで通訳を行う

空手道現場の通訳で気をつけること

1. 現場への対策

空手道の稽古や強化合宿を行う場所は、ほとんどが体育館または空手道場です。

空調がない施設もあり、夏は暑く、冬は冷えますので、熱中症対策や防寒対策が重要となります。

また室内のため、上履き持参は必須です。空手道の現場に通訳に行く際は下記のグッズを持参するといいでしょう。

- ・体育館履き、または室内履き（道場の場合、靴下のみで上がることが多い）
- ・熱中症対策グッズ（飲み物、保冷グッズなど）
- ・防寒対策（カイロ、暖かい肌着、着脱可能な上着、タイツなど）
- ・ストレッチ素材のスーツやジャケットなどの動きやすい服装（スカートは避ける）
- ・手話言語通訳者のネームプレート

2. とにかく動く・立ちっぱなし

大会は、広い武道場や体育館で行うことが多く、複数あるコートを移動する等、通訳が必要とされる場所は広範囲に及びます。

会議通訳と違い、固定された場所ではなく、手話言語通訳者自身が動きやすい服装をし、現場のニーズに応じて素早く動くことが大事です。

試合中はコートの中に手話言語通訳者は入れませんので、選手が動くたびに、選手が見える範囲内に移動したり、きこえない選手が勝ち続けると決勝戦まで立ちっぱなしとなることもあります。

また稽古場では、指導者が手本を見せたり、選手のそばによって助言をすることもあるので、常に動き回ります。手話言語通訳者は指導者から離れないように動き回ることになります。

3. 空手用語の手話表現（ポイント）

・様々な環境で育った選手がいるため、普段のコミュニケーション手段もまちまちです。
指導者が空手用語を発した場合は「指文字」と「手話言語」の両方を活用することも重要です。

また事前に表現を確認することも大事です。

・空手用語に「形名」が多用されます。

空手道をやっていない手話言語通訳者が初めて「形名」を聞くと呪文のようにきこえ、うまく「指文字」と「手話単語」を表現することができないことがあります。

そういう時は「どんな形名を出すか」を事前に確認し、表現を確認することが重要です。

・指導者はよく「擬音」を使って身体の動き方を指導することがあります。

例えば「腰はこう、シュッシュッと、ギューとひねる」といった言い方です。

「擬音」のところもしっかりと、「指文字」で表現し、CLで身体の動かし方を表現するとより具体的に伝わります。